

■清水卯三郎 出版人、輸入業者。維新前後、町人学者として活躍した“開化の商人”。(明六雑誌)の出版も担当した。

しみずうさぶろう

江波 朴追放・1829＝

武蔵国町場村(羽生)で、小田原北条氏家臣末裔で名主清水弥右衛門の三男に生まれる。母は後妻お貞。

酒造業を営んで財をなす一方、窮民救済に尽す素封家として知られる家で、頭は良いが腕白に育ち、

手を焼いた家人から少しでも治ればと、

大塩平八郎乱1837＝8歳：

適塾ホブソンの1838＝9歳：

蚕社の獄・・・1839＝10歳：

母の兄の儒学者根岸友山に預けられるが、治まらず、忍藩の(進脩館)に入れられるもだめで、その友山が養負騒動の際、農民側に与したことから、

天保改革始・1841＝12歳：

友山が江戸追放となってしまう。始末に困り、江戸へ商人見習いに出すも着かず、郷里に呼び戻され、なお、知合いの家々に預か替えるうち、

阿部正弘首座1845＝16歳：

川俣村の大地主が江戸から招いた漢学者森玉岡出会って感化され、突然学問に目覚め、伯父根岸友山に願出て、勉学に専念、根岸家に入居していた学識者から様々なことを学び、知的探究心に火がつく。

・・・1847＝18歳：

極東裁判決・1948＝19歳：

北斎没・・・1849＝20歳：

兄が死去。良き理解者だった母が死去。かつて友山の家に寄宿していた寺門静軒を頼って、江戸に出、その紹介で学者を訪ね歩き、佐藤泰然の知遇を得、オランダ語学習の手ほどきを受ける。

国定忠治疎・1850＝21歳：

父が死去、腹違いの兄が家督相続することで気が楽になる。

やがて、蘭学独習の限界を悟り、蘭学の大家箕作阮甫につく機会を窺ううち、

ペリー来航・1853＝24歳：

開国開港・・・1854＝25歳：

ロシア使節プチャーチンの下田来航に箕作阮甫が出張すると聞き、伯父友山に頼んで幕府応接掛筒井政憲の供人となり随行、ロシア語も聞き覚え、出くわしたプチャーチンに声をかけ応えられて感動した後、

松下村塾・・・1856＝27歳：

蕃書調所・・・1857＝28歳：

五ヶ国条約・1858＝29歳：

安政の大獄・1859＝30歳：

阮甫の女婿\_箕作秋坪の(箕作塾)に入ることが許され、以後、本格的に勉学、天賦の語学の才が開花、塾生が開設された長崎の海軍伝習所に入ると聞くと、随行し志願するも、身分で叶わなかったが、薩摩藩士五代友厚らと知合いになり、途中京都でも梅田雲浜ら錚々たる志士と交流して、帰府、\_オランダ語を買われ友山縁で横浜の店を手伝うことになるも、英語の世界で役立たず、再挑戦めざすうち、争いに巻き込まれて町預けの身となったことで、英語通詞に会い、ハリス公使の書記官が日本語教師を求めていると聞いて、ともに公使館に住み込むという僥倖で、

桜田門外変・1860＝31歳：

8月18日政変1863＝34歳：

**早くも、英会話を平仮名で書いた「ゑんぎりしことば」を著わし刊行。**  
\_英艦の鹿児島砲撃に文書解説要員として英艦に乗り、現地で英軍に捕えられた五代友厚と松木弘安(寺島宗則)に邂逅する奇遇、彼らを薩摩藩処罰から守るべく、提督に寛大な処置してもらい、妹の夫吉田宗悌のもとに匿う。来訪した大久保利通の依頼に応じ、薩英和平の交渉に協力、

禁門の変・・・1864＝35歳：

薩摩藩士密航1865＝36歳：

浅草の米穀商の娘と結婚し、長男が誕生するも夭折。\_浅草に薬種商(瑞徳屋)を開く。

大政奉還・・・1867＝38歳：

\_小栗勘定奉行の呼びかけに、師箕作秋坪と妻の兄吉田宗悌の勧めで、商人としては唯一人応じ、願書に感動した小栗により、異例の江戸城自由出入りとなり、幕府から収集費用の貸出に加え、全財産を投入、\_パリ万国博覧会の出品総代人として、幕府に匹敵する額の品々を用意、得意の語学で通訳兼ねて、將軍名代徳川昭武一行に扈從して渡仏、貨物授受のトラブルで裁判に巻き込まれるも、ナポレオン法典に基づく冷静で公正な判決で無事、自らのアイディア水茶屋で接待する芸妓も同伴、献身的な貢献認められて、ナポレオン3世から名入り銀メダル授けられ、石版と活版の印刷機ほか、種々のものを購入、

明治維新・・・1868＝39歳：

版籍奉還・・・1869＝40歳：

**欧米回って、帰国すると直ぐ(瑞徳屋)で、輸入販売を始める。**  
\_日本橋に店舗進出、(六合新聞)を創刊、自ら扱う商品の広告掲載するが、政府批判の廉により7号で廃刊に追い込まれる。石版印刷に成功し、明治初期の石版印刷普及を促す。

初の日刊新聞1870＝41歳：

学問のすすめ1872＝43歳：

明治6年政変1873＝44歳：

佐賀の乱・・・1874＝45歳：

「大千世界盡壽語録」刊行。  
政府に「万国博覧会建白書」を提出、却下されるも、5年後には政府主催で内国勸業博覧会開催となる。

**\*福沢諭吉の推薦で(明六社)の会計係となって入社、機関誌(明六雑誌)に「平仮名の説」を発表し、タイトの化学実験書を平仮名で訳した「ものわりのはしご」を刊行するなど、平仮名主義者となり、**

初の民間工場1875＝46歳：

明治14年政変1881＝52歳：

新体詩抄・・・1882＝53歳：

岩倉具視没・1883＝54歳：

秩父事件・・・1884＝55歳：

内閣発足・・・1885＝56歳：

帝国憲法発布1889＝60歳：

帝国議会始・1890＝61歳：

足尾鉞毒始・1891＝62歳：

大本教・・・1892＝63歳：

\_アメリカで注目した歯科医療具の輸入販売を開始、歯科業界と親交を深めて行く。

イギリスの本を翻訳「西洋烟火法」出版。東京の学務委員に選ばれる。

「当世言逆論・政体論」刊行。\_平仮名主義の学者ら集め(かなのとも)を組織し、\_「かなのみちびき」編集発行する一方、大槻文彦らと(かなのくわい)を組織して、国語改良運動を興し、

物集高見編で初の国語辞典となる「日本大辞典・一名ことばのはやし」を刊行。

「**歯科全集**」発行、以後、歯科に関する書物を多数出版し、

かつての師友山が死去。  
**\*瑞徳屋歯科書籍店として(歯科雑誌)を発刊し、歯科器材のカタログ販売と模造も開始、**  
事業拡大し、大阪に支店を設置。

日清戦争始・1894＝65歳：

日清戦争終・1895＝66歳：

京都に支店。\_第4回内国勸業博覧会に歯科用具を多数出品して受賞。息子に店を譲り引退、

子規句歌革新1898＝69歳：

Bushidou・・・1899＝70歳：

名古屋に支店。  
\_全文かな書きで、自叙伝「わがよのき」を書き、

田中正造直訴1901＝72歳：

日露戦争始・1904＝75歳：

日露戦争終・1905＝76歳：

**\*この年まで(歯科雑誌)を刊行したが、**

晩年は事業もふるわず、

韓国併合・・・1910＝81歳：

\_没した。

大井莊次「北武蔵人物伝」、